＜農地・水・環境保全向上対策と連携して効果的な取組を実施している事例＞

○“苅原（あぞうばら）”良い人・良い農地・良い農産物

１．集落協定の概要

市町村・協定名	広島県三原市久井町（くいちょう）・苅原（あぞうばら）			
協定面積 24.3ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稲・大豆・カブ	－	－	－
交付金額 510 万円	個人配分			49%
	共同取組活動 （51%）	・鳥獣害防止対策及び水路･農道等の維持管理活動 ・調査活動費 ・役員報酬		42% 6% 3%
協定参加者	農業者５人，特定農業法人１（(農）あぞうばら）農事組合法人１（(農）ﾗｲｽはただ）			

２．取組に至る経緯

苅原集落では，平成１５年２月に農事組合法人「あぞうばら」を設立し，特定農業法人として集落営農の中心的役割を担いながら，地域農業の維持・発展を図ってきた。

そうした中，米価下落等を要因に水稲主体の農業経営に不安を抱えるようになり，協定締結により，更なる規模拡大によるコスト削減や大豆・野菜といった転作作物の取組みを強化し，法人経営の継続性・安定化を図るとともに，法人を中心とした苅原集落の体制整備を進めることとした。

３．取組の内容

地域農業に愛着を持ち，「良い人，良い農地，良い農産物」をモットーに，（農）あぞうばらを中心に農地の利用集積や経営の多角化を目指して大豆やかぶ栽培に取り組んでいる。

また，平成２０年度から開始した「農地・水・環境保全向上対策」の活動と連携し，平場地域と一体的になって，畦畔管理や景観作物（彼岸花，芝桜）の植栽等の共同活動に取り組んでいるところである。さらに，堆肥施用による土壌改良やイノシシ対策としての防護柵の設置，農道補修等の生産基盤の整備にも努めている。

農地・水・環境保全対策との連携　着色部分が農地・水・環境保全対策実施地域。うち黄色部分が直払対象農用地で，景観作物の植栽等一体的な取組みが行われている。

農用地等保全ﾏｯﾌﾟ活動の実践

イノシシ対策として防護柵の設置

［集落の将来像］

「(農) あぞうばら」を中心とした体制整備

・土地の利用集積を推進し，規模拡大による低コスト化の実現

・転作作物として大豆や野菜の安定生産を目指し，法人経営の安定化の実現

［将来像を実現するための活動目標］

○土地利用･集積計画の検討，調査の実施

○大豆の増産と新規作物（カブ）の試験栽培と実践

○土壌改良・生産基盤の整備

［活　動　内　容］

農業生産活動等

- 農地の耕作・管理（田 24.3ha）／個別対応
- 水路・農道の管理
  ・水路：清掃，草刈（年２回）
  ・農道：草刈（年２回）
  ／共同取組活動
- 農地法面の定期的な点検（随時）／共同取組活動
- 鳥獣害防止策
  ・防護柵設置（3 ㎞）
  ／共同取組活動

多面的機能増進活動

- 景観作物作付け（畦畔部分に彼岸花，芝桜を約３㎞作付）／共同取組活動

農業生産活動の体制整備

- 担い手への農地集積（法人への集積目標：31.8ha ※協定外含む）／個別対応（法人）

⇔ 畜産環境総合整備統合補助事業で整備した「久井町堆肥センター」の堆肥施用による土壌改良を実施（堆肥施用面積：10.0ha）

加算措置としての取組等

- 規模拡大加算 加算対象面積：885 ㎡／個別対応（法人）

集落外との連携

○農地・水・環境保全向上対策との連携で，平場地域と一体となって畦畔管理や景観作物の植栽等の共同取組活動を実施

４．取組による変化と今後の課題等

【取組みによる変化】

○共同取組活動による集落及び参加者の連帯感の向上等，意識の変化

○共同活動による集落の活性化

【今後の課題や目標】

○継続的な活動の実施

○農家の高齢化に対応するため新規就農者の確保

［平成 21 年度までの主な成果］

○ 担い手（(農) あぞうばら）への利用集積による低コスト化

・ 当初 30ha（うち協定内 19.7ha）　目標 31.8ha　H21 実績 32ha（うち協定内：19.8ha）

○ 大豆，野菜栽培による経営の多角化

・ 大豆：当初 8ha　目標 8 ha　H21 実績 7.4ha　かぶ：当初 0ha　目標 0.35 ha　H21 実績 0.28ha

○ その他（土壌改良：堆肥施用 10.0ha　　鳥獣害防止対策：防護柵の設置 3 ㎞）